

Q1 今回のワークショップは、いかがでしたか？

表-1 Q1 結果

非常によかった	15
良かった	36
普通	3
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
未記入	3

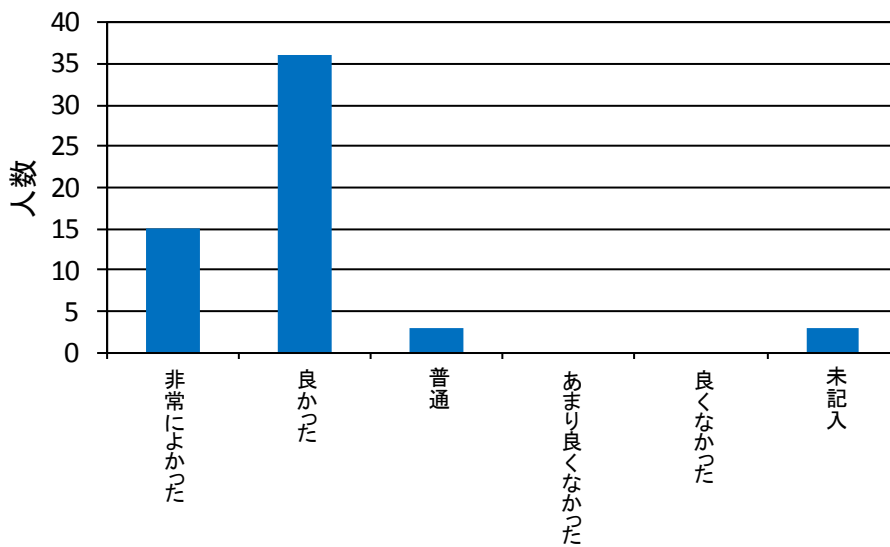


図-1 Q1 結果

[良かった点]

- ・興味深い話がたくさん聞けた
- ・樹林化現象の解明には非常に複雑な現象を明らかにする必要性がわかった。
- ・各専門家の立場ごとに異なった意見が聞けた。
- ・業務で実施している話題と合っていて、大変参考になった。
- ・樹林化に関する研究のレビューが確認できた。
- ・様々な観点からの話が聞けた。
- ・基本的な知見から最新の知見まで話題が多岐にわたっていた。
- ・樹林化の要因・メカニズムについて多面的に聞けた。
- ・今、どんな状態になっているのかがわかった。
- ・自分が知らなかった知見が多く得られた。
- ・樹林化の問題・現象について事例を踏まえながら整理できた。

- ・ 樹林化というひとつのテーマについて、いろいろな話がまとめて聞けた。
- ・ 河道内樹林の現状と今後の課題について総合的に把握することができた。
- ・ 樹林化の形成の要因や対策についての具体的な話が多く興味深いものでした。
- ・ 樹林化研究の全体像がよくわかった。また、課題についてもよく理解できた。
- ・ 多面的に樹林化を捉えている視点の広さと選択がよくわかった。
- ・ 河川工学，生態系という様々な分野の話が聞けた。
- ・ 各発表の内容が濃かった。
- ・ 自分が大学で研究していることに深くつながっているため勉強になりました。

[良くなかった点]

- ・ 発言の機会が少なかった。
- ・ 各講演の時間が短く，理解できない部分があった。
- ・ 説明が速く理解がおいつかない。
- ・ 個々の講演の間がなかった。
- ・ 樹林化してしまった後の対策，その後のモニタリング評価などがあるとよかった。
- ・ 事前に論点の整理があればよかった。
- ・ 発表ごとの質疑があればよかった。
- ・ まだ，樹林化の要因が明らかになっていない点。
- ・ 時間的な問題で，説明を省略されたことが少し残念でした。
- ・ 1件あたりの時間が短かった。
- ・ WSのタイトルの答えが見えなかった。
- ・ その場で聞いてみたいことが聞けなかった。

Q2 今回のワークショップの中で、どの講演に興味（期待）を持って参加されましたか？
 （複数回答可）

表-2 Q2 結果

セッション① 樹林化過程における河道地形変化, 土砂動態, 洪水攪乱, 生物過程の絡まり合い方と河道設計への道のり-多摩川永田地区研究から学んだことを起点に-	39
セッション① 阿川樹林化の実態と対策	32
セッション① 砂州上の草本・木本の破壊・流失限界と土砂堆積特性に基づく植生動態予測の可能性	29
セッション② 砂州の富栄養化現象と植生遷移/樹林化-栄養塩循環とその管理-	21
セッション② 砂州の安定化と樹林化-相互作用系としてのプロセスと影響-	27
セッション② 阿川流域のメタボリズム-河川水系における樹林化傾向の確率診断-	23
総合討論	12

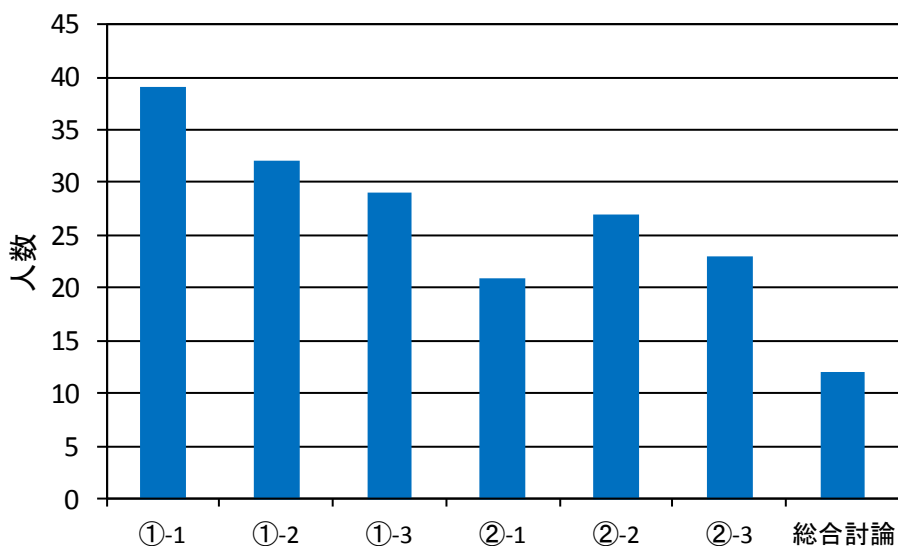


図-2 Q2 結果

備考

①-1：樹林化過程における河道地形変化，土砂動態，洪水攪乱，生物過程の絡まり合い方と河道設計への道のり-多摩川永田地区研究から学んだことを起点に-

①-2：河川樹林化の実態と対策

①-3：砂州上の草本・木本の破壊・流失限界と土砂堆積特性に基づく植生動態予測の可能性

②-1：砂州の富栄養化現象と植生遷移/樹林化-栄養塩循環とその管理-

②-2：砂州の安定化と樹林化-相互作用系としてのプロセスと影響-

②-3：河川流域のメタボリズム-河川水系における樹林化傾向の確率診断-

Q3 今回のワークショップの中で、あなたにとって有益だった講演はありましたか？（複数回答可）

表-3 Q3 結果

セッション① 樹林化過程における河道地形変化, 土砂動態, 洪水攪乱, 生物過程の絡まり合い方と河道設計への道のり-多摩川永田地区研究から学んだことを起点に-	42
セッション① 阿川樹林化の実態と対策	36
セッション① 砂州上の草本・木本の破壊・流失限界と土砂堆積特性に基づく植生動態予測の可能性	22
セッション② 砂州の富栄養化現象と植生遷移/樹林化-栄養塩循環とその管理-	24
セッション② 砂州の安定化と樹林化-相互作用系としてのプロセスと影響-	31
セッション② 阿川流域のメタボリズム-河川水系における樹林化傾向の確率診断-	20
総合討論	16

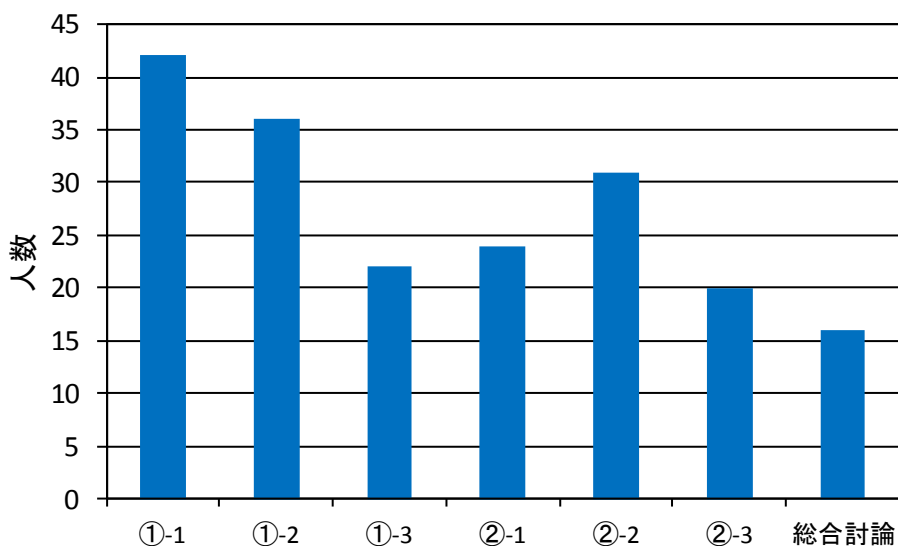


図-3 Q3 結果

備考

①-1：樹林化過程における河道地形変化，土砂動態，洪水攪乱，生物過程の絡まり合い方と河道設計への道のり-多摩川永田地区研究から学んだことを起点に-

①-2：河川樹林化の実態と対策

①-3：砂州上の草本・木本の破壊・流失限界と土砂堆積特性に基づく植生動態予測の可能性

②-1：砂州の富栄養化現象と植生遷移/樹林化-栄養塩循環とその管理-

②-2：砂州の安定化と樹林化-相互作用系としてのプロセスと影響-

②-3：河川流域のメタボリズム-河川水系における樹林化傾向の確率診断-

Q4 河川環境について、どのような情報・話題に興味がありますか？（複数回答可）

表-4 Q4 結果

樹林管理	38
統合的治水管理	6
水系一貫土砂管理	21
土砂動態	29
栄養塩動態	10
生物多様性	18
モニタリング技術	19
モデリング技術	9
自然再生	20
その他	2
その他の意見 ・河道の動的平衡の評価 ・河川植生動態	

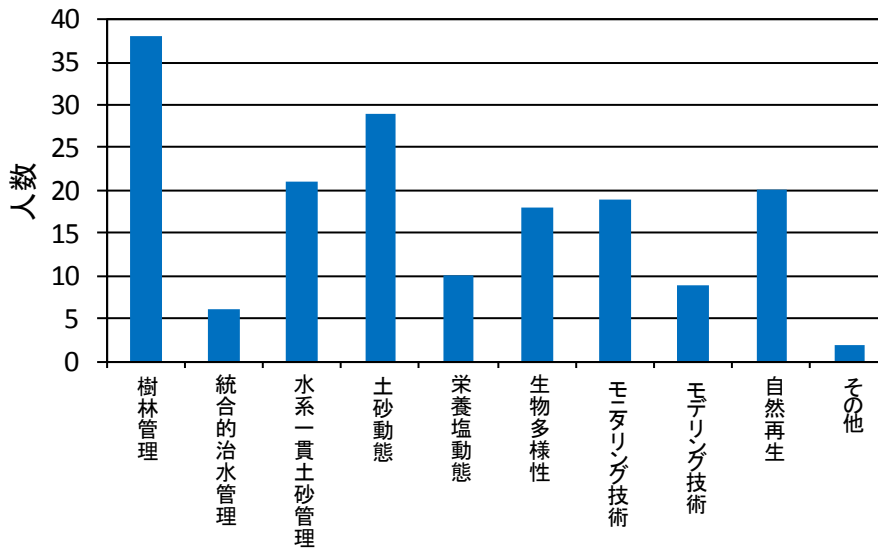


図-4 Q4 結果

Q5 今回のワークショップに対するご意見・ご感想をご自由にご記入下さい。

- ・多角的な視野で樹林化を見れた。まだ全然未解明な事象がよくわかった。
 - ・樹林化に特化したシンポジウムに初めて参加させていただきましたが、自分の研究分野以外の知見を深める良い機会でした。
 - ・もう少し河川の樹木管理について議論があればよかった。
 - ・河川の樹林化・維持管理をテーマとした今回と同じようなイベントを継続してほしい。
 - ・もう少し、ひとつひとつのテーマに時間をかけた説明が欲しい。
 - ・河川の樹林化は非常に複雑であることを改めて認識した。今回の講演を河道設計維持管理等に繋げていきたい。今後は維持管理に向けた有効な対策の一端を知りたい。また、現場からもどのようなことをやって、どのような結果が得られたか報告する時間を設け議論しても良いのではないかと。
 - ・自分が見ようとしている植生管理の話も出てきてとてもためになった。今後の研究について参考にできる点が多くて満足している。樹林化だけでなく他の河川植生テーマについてもWSをしてほしい。
 - ・河川は、上・中・下流で条件、起こる事象が異なる。このため、河川によって問題が多種多様である。もう少し条件を整理して研究成果を活かす必要がある。個別発表はそれぞれ良かったが、全体としては少し雑然としてまとまりがなかった。
 - ・様々な見方・取り組みを知り、現象を理解し、対策を考える上で多くの知見を得ることが出来ました。ありがとうございました。
 - ・次のWSが楽しみにになりました。
 - ・総合討論の中でもあったが、まさに研究内容が多様化しすぎて、樹林化の原因や対策という最も知りたい部分がぼやけた気がする。ただし、複合的な要因が重なって樹林化が進むのであれば仕方ない気もする（研究のレベルがそこまで達していない）。ただ、現象を理解するという研究もさることながら近年樹林化が進んだ理由についてはもう少し取り組む必要があるのではないかと思った。
 - ・今後もWSを企画してほしい。
 - ・総合討論が良かったです。
 - ・プロセスごとに分けて議論した方が良いと思いました。
- ①樹木が生育する条件は何か？
- ②その条件がなぜ作られるか？
- ①がわかれば治水での対策方法の議論がしやすくなりそうです。
- ・すでに数年行われてきて安定感がある、というか確立された研究の発表が多く、それらの研究が行われた背景や経過を学ぶことが出来た。しかし、ここ3年以内とか新しい知見も教えて頂けるとなお良かったように思う。
 - ・人為的影響について考慮しない科学的なディスカッションで非常にアカデミックであっ

たと思うが、はたして過去の人為的影響を無視してよいのか？おそらく、戦前の土地利用からすれば、河川中下流域の樹木草本は日々の薪等に強く利用されていたのでは？加えて目標像はどこに置けばよいのか？木のない川か、適度に木のある川なのか？

- ・寒かった

- ・総合討論について：各先生方が考えていらっしゃる樹林化に対する考え方を整理すべきであると考えます。題材に挙がっている「今後の河川流域管理に向けて」の部分の討論がなかったことが残念だった。

今後：活発な議論が行われるよう期待しています。

- ・樹木管理の実施、モニタリング事例まであったら良かった。

- ・総合討論は発表者主導にしてしまうと内容が偏るので、事前の用意が必要だと思う。（出席一般者の主導が望ましい）

- ・今後のさらなる議論の発展を期待しています。総合討論の進め方に関してはもう少し工夫が必要だと思います。

- ・樹林化のメリット・デメリットを明快にしてその成因などの解説があればよかったと思う。樹林化の定義の明快化が必要では？

- ・生物系の人間なので、土木系の人の生物の捉え方がよくわからなかった。ツルヨシやヤナギ、カワラノギク、など水辺や河川攪乱に依存した植物と、アレチウリやハリエンジュなどの陸上植物と一緒に議論されるのには違うのではないかと思った。アレチウリやハリエンジュなどに対処しようと思えば、陸上植物を扱う方法でしないといけない。むしろ、こうした植物の立地を改めることが課題と思うので切り下げや段差の解消にも比重を置いた方が良かったのでは？

- ・樹林化速度は物質循環とも関係性が深いことが分かった。管理にしても時間スケールをどのように設定するかが重要だと思いました。

- ・ミレニアム計算が印象的。広い技術にならないか。

- ・河川上流、砂防、治山との交流、ジョイントの見通しは？砂防・治山に関しては、スリット化の土砂移動の実績データの蓄積はこれから？データ入手は？個々の河川で進めていく必要あり？

あなたの性別は？	
女性	男性
4人	54人

あなたの年齢層は？							
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0人	12人	17人	19人	8人	2人	0人	0人

現在のお住まいはどちらですか？			
北海道	3人	大阪府	5人
東京都	9人	京都府	2人
神奈川県	2人	兵庫県	5人
埼玉県	4人	岡山県	2人
千葉県	2人	山口県	2人
茨城県	2人	福岡県	2人
愛知県	8人	未記入	9人

このワークショップ開催をなにで知りましたか？	
メール	9人
チラシ・ポスター	0人
ホームページ	3人
知り合いの紹介	20人
職場	20人
その他	5人

あなたの業種（職種）は何ですか？	
行政	2人（1人：河川環境, 1人：未記入）
研究・教育	7人
コンサルタント	40人
建設会社	0人
学生	6人
一般市民	1人
その他	1人（財団）